

神経衰弱症ノ循環器系統ニ及ボス影響 : Y. Fukuda,  
Ueber die Zirkulationsstörungen bei  
Neurasthenikern

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38339">http://hdl.handle.net/2297/38339</a>

其他鳩谷小學校ニテ學童百餘名、椿原分教場ニテ二十餘名ヲ檢セシモ今ハ確ナル記入ナク略ス

只一般ニ体格ハ中切分教場ヨリ少シク劣ルガ如シ尙鳩谷ニテ「トラホーム」四五名アリ椿原ニテハ著明ナルモノ三名ヲ見タリ之ニ因リ考フルニ「トラホーム」ハ越中地方ヨリ感染セルモノニ非ザルカヲ疑ハシム而シテ白痴、

聾啞、癩癩、盲目等ハ一人モナク鳩谷小學校ニハ跛者男二名女一名アリ多指症モ一人アリ其外ニハ不具者ト認ム可キモノヲ知ラズト云フ(吃音者及左利ハ確ナラザルモ無キガ如シト云フ)

概括スルニ本稿ハ白川村ノ總論ニ過キズ詳細ナル検査ハ他日必ス機アル可キヲ信ジ今ハ之ニテ終ラントス然レモ如上ノ記載ニ因ルモ吾人ノ想像スルガ如キ大ナル變化ナカル可シ

要 約

- 一、飛驒白川村ハ古來血族結婚ヲナスト稱サル、モ現今戶籍面上殆ドナシ只獨特ノ家族制度ノモトニ嗣子以外ハ結婚ヲナサズ其家ニアリ各自所謂内縁ノ妻ヲ有シ私生兒ハ公生子一〇〇ニ對シ實ニ四二、四ヲ占ム而シテ本村ハ交通不便ノ僻地ニシテ人口ニ比シ戶數少シ(平均一月九、三五人)等ノ点ヨリ考フルニ私生兒中ニハ血縁ノ近キモノ多キニ非ザルヤヲ疑ハシムニ足ル
- 二、出産數ハ他ニ比較スルニ稍少キモ死亡率少ク人口年々四十餘名ノ増加アリ村民一般ニ強壯ニシテ壯丁成蹟ハ郡中常ニ優位ヲ占ム
- 三、一般ニ生活程度ハ低ク俸祿ヲ常食トシ粗衣粗食ニ甘シソ所謂文明ノ餘

- 弊ヲ蒙ラザル塵外ノ秘境ニシテ何等ノ競争ナク村民只平和ニ其日ヲ送ルヲ以テ満足セリ又古來經濟ノ点ヨリ飲酒喫煙ヲナスト少ク今日モ尙然リ
- 四、教育ノ程度モ低ク小學校ヲ卒業スルノミニシテ今日迄中學卒業者一人
- 在學者一人アルノミ村民多クハ農作ヲナシ何等ノ不平モ向上心モナキガ如シ他ノ交際少ク交通險惡ニシテ行人稀ナルニモ因セシ村內ノ有識者ハ在郷軍人トス只近年出稼ヲナスモノ多ク稍進化セルト共ニ種々ノ惡風及疾病ヲ輸入セリ
- 五、古來健康地ニシテ傳染病等少シ只荻町ニハ癩病アリ昔ヨリ此字ト結婚スルモノナシト云フ其他ノ遺傳病、不具者等ハ甚々稀ナルガ如シ更ニ之等ニ就キテハ精査スルノ機アル可シ今ハ只其概況ヲ記スルニ過キズ

●神經衰弱症ノ循環器系統ニ及ボス影響

Y. Fukuda, Ueber die Zirkulationsstörungen bei Neurasthenikern.

福田 美 明

檢脈則チ脈搏ヲ檢スル事ハ、昔時切脈ト稱シ疾病ノ診斷及豫後ヲ定ムルノ唯一方法トシテ、醫師ノ必ズ行ヒシ方法ナリキ。今ヤ診斷學ノ發達ニツレ檢脈ノ價值亦昔日ノ如クナラズト雖モ、尙ホ脈搏ヲ檢スルノ必要ナルハ辯ヲ俟タザル所ナリトス。殊ニ是レニヨリテ吾人心臟機能ノ強弱、整、不整、脈管緊張ノ如何ヲ窺知スルノ捷徑トナリ、吾人生活機能中最大必要ナル血行器ノ狀態ヲ豫測シ得ルハ、疾病ノ豫後ヲ定ムル上ニ於テ他ノ方法ト相俟

ツテ必要缺クベカラザル所ナリトス。是レ血行器ハ疾病ノ種類輕重及ビ患者ノ狀態ニヨリテ影響ヲ異ニスルヲ以テ、反對ニ脈搏ノ性狀ヲ檢シテ疾病ヲ診斷シ豫測シ得ルハ當然ノ理ナリトス

脈搏ヲ檢スルノ目的ハ種々アリト雖モ、脈搏ノ數及其調節竝ニ其性狀ヲ檢査スルモノニシテ、數ノ變化ハ生理的ニモ病的ニモ變動アルハ吾人醫家ノ常ニ實驗スル所ニシテ、其原因ノ如何ニヨリテ數脈 Puls. frequentus トナリ、徐脈 Puls. rarus チ呈スルモノトス。又正常ナル脈搏ニ在リテハ其箇々ノ脈搏ガ同一期間ニ於テ相次テ來ルベキモノニシテ、則一定ノ調節ヲ有スルモノナルモ亦種々ノ原因ニヨリテ變化シ、生理的ニモ病的ニモ調節ヲ失ヒテ、不整脈 Puls. arhythmicus チ來シ、殊ニ缺脈 Puls. defectus 交遊脈 Puls. alternans 二搏脈 Puls. bigeminus 三搏脈 P. trigeminus 奇脈 P. paradoxus 等ヲ呈スル場合アルハ明ナリトス。次テ箇々脈搏ノ性狀 Quantit. ニ至リテハ、更ニ其大サ、緊張、速度、重搏等ニ就キテ差異アリテ、各疾病及原因ニヨリテ、大小硬軟遲速及重複脈ヲ呈スル事ハ成書ノ既ニ教フル所ナリトス

而シテ此等ノ性狀ヲ知ルニハ主ニ觸診ニ依ルトハ云ヒ一々ノ脈搏ニ就キテ精細ニ檢査スルニハ、脈波計法及脈壓計法ヲ以テスルニ如カザルナリ。予ハ金澤病院神經科ノ患者九十五例ニ就キ、脈搏脈波及脈壓ヲ檢シ稍興味ヲ感セシ事柄ヲ述ベ、先輩知賢ノ教導ヲ仰ガント欲ス  
予ガ使用セシ器械ハ、Junway 氏(米人)ノ血壓計 Sphygmomanometer チ以テ、患者ノ左上搏ニ於テ血脈ヲ檢シ、次テ左ノ橈骨動脈ニ於テ脈數ヲ讀ミ、次テダグジュナオン Dudgeon 氏ノ脈波計ヲ用キテ Sphygmographie チ

作リタルモノトス。(脈壓ハ每人三回以上ヲ試ミ平均數ヲ取リ脈搏ハ三十秒間ヲ數ヘ脈波ハ三枚以上作成セリ)其ノ詳細ハ別冊ノ如シ(別冊略ス)

以上ノ予ガ例ニ徵スルニ、血壓平均約一二〇密迷突ニシテ Gärner, Pilez, Hirsch, Weiss, Jallinek, Kapsner 等ノ成績ト畧ホ一致スルヲ見ル。尙ホ本邦ニ於ケル林氏生沼氏モ殆ド同様ノ成績ヲ報告セラレタリ。脈波弧線ニ至リテハ各自固有ノ狀態ヲ呈スルモ、大體ニ於テ疾病及ビ血壓ニ關連シテ相一致スル形狀ヲ呈セルヲ見ル。則チ予ノ實驗セシ患者ハ健康者ト認ムベキ者ヲ始メトシテ、心臟病、腎臟病、神經病等種々雜多ノ例ヲ包含セリ。是等ノ例ニ就キテハ格別興味ヲ有セザリシモ、獨リ神經衰弱症ヲ有セシ三十餘例ノ患者ノ脈波弧線ニハ、一種特別ノ弧線型ヲ呈セルヲ發見セシ事ナリ。則チ別冊ノ示ス如ク是ヲ他ノ弧線殊ニ健康ナル脈波弧線ニ比較スル時ハ一見著明ノ差異ヲ見ルベク、則チ神經衰弱患者ノ脈波弧線ヲ精檢スルニ、上行脚ハ踏動的ニ上昇シ、而カモ一種ノ圓形ヲ帶ビ、急頓ニ上昇シ、普通ハ斜面的ニ下行脚ニ移ルヲ例トスルモ、本例ニテハ下行脚ハ又モヤ急激ニ沈降シテ、彈力隆起著明ナラズ。直ニ反衝隆起 Rickstosselevation ノ突隆ヲ生ジ第二ノ彈力隆起 Elastizitätselevation チ呈セズシテ、次脈ノ上行脚ニ移行スルヲ見ル。則チ一見熱性病ニ來ル重複脈 Puls. dierotus ノ狀態ヲ呈シ曲線頂嶺 Kurvenhöhe ハ稍尖銳ヲ缺キ、速脈狀ヲ呈ス是熱性病ニ於テハ、高熱ノ爲メ血管ノ麻痺ヲ來スヲ以テ、動脈壁ノ緊張著シク減少スルニ基クモノトス。然レドモ神經衰弱症ノ逆衝隆起ノ強盛ナルハ脈管ノ麻痺症狀ニアラザルハ明ニシテ、是正シク神經衰弱症ノ Grundsymptom ナル脈管ノ亢奮性及ビ衰弱性ニ基クモノニシテ、所謂 Weber 氏等ノ稱

セシ脈管神經ノ reizbare Schwäche ナリトハ云フ、予ハ以上ノ性狀ヲ以テ脈管壁ノ弛緩狀態 Hypotonische Zustände ガ大ニ原因セルモノト思考ス。則チ脈管壁弛緩シテ容易ニ擴張スル性質ヲ有セル爲メ心臟收縮シテ血流ヲ脈管ニ送ルヤ急頓ニ而カモ過度ニ擴張シテ是ヲ受領シ、擴張セル脈管ハ苦モナク血流ヲ導キテ脈管自己ノ收縮性ニヨル第一彈力隆起ヲ起スノ暇ナク、再ビ逆流シ來レル血流ニヨリテ第二ノ隆起則チ逆衝隆起ヲ引キ起スモノト考フベク、殊ニ注意スベキハ本患者ノ血壓ノ關係ニシテ、予ノ實驗ニヨレバ神經衰弱患者ノ脈搏ハ、非常ニ著明ナルニモ關ラズ、血壓ハ反テ低キカ變化ナキヲ普通トシ、平均一四密突突 Hg ナリ。是レ脈管ノ緊張増加ナク、心臟肥大、脈管壁厚等ナク所謂器質的變化少ナルヲ示スモノニシテ、脈波ノ特異性ハ血壓等ノ變化ニ大關係ナキガ如シ

以上ノ理ヲ以テ神經衰弱症ニ必發症ナル心機亢進 Taachycardie od. Herz-Klopfen ノ原因ヲモ説明シ得ベク。即チ神經衰弱症ニハ心臟ヲ支配スル神經ノ興奮性ナルト、同制止神經ノ衰弱性ナルトハ最大原因ナリト雖モ、心臟自己筋肉ノ緊張力減少モ亦重大ナル原因ニシテ、心臟ガ血流ノ去就ニ際シテ過度ノ影響ヲ蒙リテ擴張スルニ基ツクモノト考フルヲ至當トス

尙ホ獨リ心臟脈管ノ弛緩 Hypotonie ノ狀態ニ止マルノミニアラズ、末梢ノ毛細管ニモ同様ノ性狀ヲ來ス。則チ内皮細胞ノぶるぶらすま收縮性ガ弛緩狀ニ陥リ僅少ノ刺戟ニテモ脈管擴張シ血液集中シ一方弛緩狀ノ毛細管ハ肆イママニ血液ヲ滯留セシメテ、皮膚ニ潮紅ヲ呈シテ刺戟部ニ文字圖畫ヲ現出セシメ、則チ皮膚紋齏症 Dermographie ノ原因ヲ與フルモノトス

結 論

神經衰弱患者ノ循環器系統ハ一種ノ Hypotonie ノ狀態ニ存シ、爲メニ心臟ニアリテハ心機亢進ノ最大原因トナリ脈管ニテハ一種固有ノ脈搏ヲ呈シ。脈波弧線ニ變化ヲ與ヘ毛細管ニアリテハ、皮膚紋齏症ノ主因トナル。血壓ハ多少減少スルヲ例トス

附言 呼吸下脈波ノ關係ハ神經衰弱患者ニ於テ變動著明ニシテ殊ニ深吸氣ニハ血壓増加(後半期)シテ脈管ニ影響ヲ來シ一種ノ脈波弧線ヲ形成ス(畧附圖、「リテラツール」略)



# 漫 録

## ● 落 選 談

山 田 謙 次

こは第十二回十全會講話大會の席上に演説せられたるもの今原稿を得て誌に載す文責筆者にあり (F生)

生は在學中幸にも一回だに落第せざりしも政治社會に於ては市會議員候補者となる事三回中一回。衆議院議員候補者に立つ事二回にして二回共落選せり然るに這般總選舉にては三十日間奮闘し最も多く社會の狀況も知り政黨間の消息にも通するを得たり